

令和4年度高知県職業能力開発審議会 議事概要

1. 日 時 令和4年7月28日(木)
2. 場 所 高知共済会館 大ホール「桜」
3. 出席委員 大井方子 田中賢一 筒井早智子 野島幸一郎 青木雄治
大西孝枝 楠瀬智都世 白木政行 川上勲夫 森山万里子
4. 議 事 第11次高知県職業能力開発計画に基づく進捗状況について
高等技術学校の取組について

5. 内 容

(1) 開会

(2) 商工労働部長あいさつ

(3) 第11次高知県職業能力開発計画に基づく進捗状況について

○事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

20ページの(7)下段のワークライフバランス推進企業の認証制度について、半数以上が建設業であるとのことであったが、何か理由があるのか。

(事務局)

建設業の皆様方には、この制度をご理解いただき推進していただいたものだと考えているが、ワークライフバランス推進企業としての認証を受けた場合、その企業は入札制度の加点制度の対象となる。このインセンティブの存在もあって建設業の方が増えている状況となっている。

(委員)

21ページの高知県移住促進・人材確保センターと連携した職業訓練に関する情報発信について詳しく伺いたい。

(事務局)

高知県移住促進・人材確保センターと連携した職業訓練に関する情報発信については、令和3年度は高知UIターンサポートメディアのホームページに高等技術学校の訓練生募集記事やU・Iターンをした訓練生の紹介記事を掲載し、情報発信を行ってきた。今年度も移住促進・人材確保センターと連携して、職業訓練に関する情報発信やオンライン説明会の実施に向けた取組を進めていく予定である。昨年度はコロナの影響があり、なかなか都市

部での説明会などに参加できなかったが、今年度は機会を通じて取り組みたいと考えている。

(委員)

12 ページの一番下で説明のあった女性の職業能力開発の訓練受講者に対する託児サービスの提供について、これは女性に限定したサービスなのか。男性でも託児希望の方がいれば受け入れるサービスなのか。女性だけでなく、男性にもニーズがあるのではないかと思う。

(事務局)

男性の保護者の方も大丈夫である。

(委員)

そのことの周知は行っているのか。

(事務局)

チラシの配布は行っており、できる限りの広報は実施している。

(委員)

先ほどの質問に対して、託児サービスの提供に関する記述が資料上の分類では女性の職業能力開発となっているが、女性に限っているわけではないと解釈してよいのか。

(事務局)

制度として男性も女性も利用できるのものでその解釈で合っている。

(4) 高等技術学校の取組について

- 事務局から説明
- プロモーションビデオ上映
- 質疑意見など

(委員)

高知校の自己都合による中途退校率について、目標に対して少し高い数値となっているが、どういう事情や理由があるのか教えていただきたい。

(事務局 (高知校))

様々な事情が組み合わさってはいるが、やはり入校したものの合っていなかったとい

う場合もあれば、本人が進路を変更したくなったという場合もある。

(委員)

技術学校で学ぶ内容は現在非常に人手不足な分野なので、どの企業も欲しがるとは思うが、コースによって人気に差があると思う。それらがどんなコースなのか教えていただきたい。また、就職率について、コースの特徴などがあればお聞きしたい。

(事務局 (高知校))

応募に当たっての人気の違いはあり、自動車整備科とオートボディ科が人気となっている。これらのコースは高校新卒で入ってくる訓練生が多く、車に興味を持つ年代であることが理由の一つと考える。また、科の名前から何をやるのか分かりやすいからではないかとも考えている。

就職率については、自動車整備科の訓練生が1年生が終わった時点でほぼ内定をいただいているという特徴がある。

(委員)

まず、高等技術学校のPRの効果について、入校率の底上げを図る目的で大きな金額を使ってパンフレット等を作成し、広報を行ったにもかかわらず、令和3年度の入校率は55.3%と下がっている。この結果について、広報の効果をもとにどのように分析しているのか、今後についてはどう考えているのか伺いたい。

第2に、県外と比較した状況をお聞きしたい。高知県ならではの訓練コースもあるとのことだが、他県でも実施しているコース同士を比較すると何か原因が分かるのではないかと考えているので分析や考察をしていただきたい。

第3に、高知県は若者が少ないため、県外に広報をしても良いのではないかと考えているが法律的、条例的に可能なのかをお聞きしたい。

最後に、どんな人を入校生のターゲットとして考えているのかをお聞きしたい。左官にしてもオートボディにしても就職して親方の背中を見て学ぶイメージがあり、技術学校で学ぶというイメージがない。それならば会社と技術学校で人の相互紹介をしたほうがむしろ人が来やすいのではないかと思う。技術学校に通ってから入社した方が良いという感じであれば、関連する業界団体とも話し合いをしてもよいと思う。

(事務局 (高知校))

まず、広報の一環として作成したパンフレットやプロモーションビデオは非常に効果があると考えており、配布を行った各所からも非常に好評をいただいている。なぜ入校率が低いのかというと、高校生の数の減少や高校生向けの求人が好調であったことが影

響していると考えている。

入校率を高めるためにはまず学校を認知してもらうことに力を入れなくてはならないと考えている。4月からの取り組みを振り返っても実際に学校に来て訓練内容を体験していただくことが最も学校のことを理解してもらうために効果的であると感じている。今後は技術学校に来てもらう、もしくは学校訪問のようにこちらから説明に出向く機会を積極的に拡大していきたいと考えている。

県外の広報についても可能であれば実施していきたいと考えている。先日7月21日に高知校は1回目のオープンキャンパスを実施したところである。申し込みは15校から37名だったが、1名は愛媛県の高校からの申し込みだった。なぜ愛媛の高校生が申し込まれたのかの詳しい分析ができていないが、細かく分析し、県外にPRが可能であればしていきたいと考えている。

(事務局 (中村校))

県外へのPRについては、テレビCMに先ほど放映したプロモーションビデオを流してもらいたいというのは自分の方でも考えたことはある。また、映画館の幕間に流すことができるとも記憶に残るのではないかと考えている。

会社の社長に従業員の方を在籍させたまま本校に派遣いただくことを相談したことがあるが、少し苦しいという意見が多かった。

学校の認知度の向上については夜間中学校や児童養護施設、女子校などを訪問している。すぐには効果が出ないと思うが、複数のチャンネルを持っておくべきと考えており、来年度以降も継続して取り組んでいきたい。

(委員)

技術学校はものづくり産業という非常に重要で貴重な人材を輩出する学校であると思っている。応募者が少ないことについては広報に対して他の部局に負けないようにしっかりと予算を取り、周知を行っていくことが重要であると考えている。

しかし、現在のものづくり産業は非常に産業間競争が厳しい。建設業でも土木の現場作業員は非常に不足しているのでどの会社も若手の気を引こうと必死に広報に力を入れている。よって、少し効果が低いから規模を縮小するのではなく、引き続き広報をしてほしい。広報関係の予算をしっかりと取っていただいた上で若者やその保護者の目につくような工夫を凝らして応募者増加に向けたPRや周知を行っていただけたらと思う。

人手不足は全国的な問題でもあり、給与面などで県外と比較するとどうしても高知県は負けるので、県外流出は仕方ない面もある。これが応募率にも影響していると思うが、いろいろな知恵と工夫で応募者を増やす努力を引き続き行っていただきたい。

(委員)

今のPVを拝見して、素人目に見てとても分かりやすくいいと思った。PVを見れば機械加工科や溶接科が何をするか知らない方であっても理解できるし、パンフレットには給与が段階別に上がっていく過程をわかりやすく書いているので、学生にも保護者にも分かると思う。

進路について関心を持っていれば、高校や技術学校に進学して勉強するか、中卒ですぐ入社して実績を積みかといった将来の選択肢を自分で考えることができるようになるので中学校くらいの頃から進路についての知識は身につけていくようにした方が良く思う。

(委員)

先ほどの意見には私も賛成で、中学校や小学校といった小さい時期からこういう仕事があるということを知ってもらうために学校や保護者に地道に働きかけることはとても大切だと思うので今後も続けていただきたい。

また、インターネットの活用について、数年前に中村校へお邪魔したときに建築の授業を受けていた方が沖縄出身の方だった。彼に話を聞くと、自分のところでは希望する学科がなく、ネットで調べてここにやってきた、という話を聞くことができた。その後彼がどうなったかは分からないが、できたら中村で働きたいということも言っていた。

県外の人を入れないといけないということではないが、一つの県で全ての学科がそろっている訳ではないので、希望する学科がある隣県で勉強したい、といった考えにも応えられるように工夫をしてほしい。今はネットでいくらでも検索できるので、ネットで検索しやすいようにしてもらえたらいいのではないかなと思う。

最後に、高知校にお邪魔したときに、指導員の方と生徒が対面で要望を含めて和気あいあいと話をしていたのを見て「あっこれいいな」思った。生活相談ももちろん大事だが、こういう環境だと日頃から皆さんが希望していることや足りていない部分が分かりやすいと思う。このような交流の場を設けているのは非常に良いことだと思い、感心して見学させていただいた。

(委員)

自分の子育ての経験や仕事上で高校の先生と様々な話をする機会があった。進路の先生は高知県内の企業をよくご存じだが、それ以外の普通の教科の先生などは高知県にどんな企業があるのか知っていただけないと強く感じることもある。高知には企業もないからね、といったことを平気でおっしゃったりもするので、中学校はもちろん、高校の進路担当以外の先生や担任を持って子どもと直接話をする先生に、こういう学校で技術を身につける、手に職をつけるという生き方もあるというアドバイスができるよ

うに、先生方にも知っていただけるような方法をとっていただきたい。

(以上)